

## 《 一関工業高等専門学校との教材開発 》

本校は独立行政法人国立高等専門学校専機構一関工業高等専門学校と平成20年度から千葉悦弥教授、中山淳教授のお力をいただき、共同で障がいに対応した教材の開発に努めています。

教材開発に当たって、本校の職員が幼児児童生徒の実態に応じて、このような教材があると指導に役立つと思われる教材の案を考え、教材のイメージを具体的に書いた構想案を作成します。この構想案を基に、一関高専の教官と学生の皆さんに教材を作成していただいています。幼児児童生徒のみなさんが操作しやすい教材を作成するために、それぞれの教材作成の担当の教官と学生が本校に来校し、幼児児童生徒とかかわり合ったり、担任教師との意見交換を行ったりしながら教材開発を進めています。

これまでも「ハーモ君」(キーボードにつなぐと5つのコードで和音奏ができるスイッチ)、「分離型マウス」(児童の手指機能に応じてカーソル操作部分とクリック部分を分けて使いやすく改良したマウス)、「集会用電子ルーレット」など製作いただき学習活動に生かしてきました。

今回、千葉悦弥教授と学生による「シャトルラン機器」が完成し、5月に届きました。LED電球を使い、電子音だけでなく残り時間が見えるように工夫されています。また、ランニングなど走った回数の記録もできるようになっています。これからも活用しながらより使いやすい「シャトルラン」にしていく予定です。

児童生徒の学習活動に生かすため今後も一関高専のお力をお借りして教材開発に取り組んでいきます。

### 共同開発した教材

#### ■集会用電子ルーレット (2016年)

おにぎりカップなど身近にある材料を使い、専門の知識と技術で、ランプの回転やタッチボタンに改良を加えていただき、より使いやすいルーレットとなっています。



#### ■シャトルラン機器 (2017年)

LED電球を使い、電子音だけでなく残り時間が見えるように工夫されています。また、ランニングなど走った回数の記録もできるようになっています。

